

地質標本館特別展「GSJのピカイチ研究—2023年のプレスリリース等で発信した成果より—」の開催

森田 澄人¹・都井 美穂¹・清水 恵¹・地質標本館室運営グループ¹

2024年3月5日～4月21日の期間、地質標本館では特別展「GSJのピカイチ研究—2023年のプレスリリース等で発信した成果より—」を開催しました(第1図および第2図)。地質調査総合センター(GSJ)では、例年、前年の1月から12月までの1年間に発表したGSJによる「プレスリリース」や「主な研究成果」の研究テーマを取り上げ、同特別展を開催しています。恒例のため「ピカイチ展」とも呼ばれています。GSJの特筆すべき研究成果を一堂に展示することにより、GSJが推進する最新研究を来館者やホームページの来訪者にアピールすることを目的としています。開催には、地質標本館1階ホールおよび同館ホームページを利用しました。

2023年のピカイチ展では、全部で22件の研究が取り上げられました(第1表)。また各研究の性格から、「地質情報」、「新技術」、「新発見」に分類されています。展示会場ではプレスリリース等で発表した資料を基にその要約をパネル化して掲示し(写真1)、その内容には元のプレスリリースサイトや、研究に関わる論文等のウェブサイト情報をURLと二次元バーコードで付しています。また、地質標本館ホームページには特別展の「WEB会場」を設置し、カーセル式のビューワで個別の研究をピックアップして閲覧できるようにしました(第3図および第4図)。このWEB会場は開催期間後も公開しているため、引き続き閲覧が可能です。

GSJでは、例年、プレスリリースされた研究から地質調査総合センター研究奨励賞を発表しています。2023年の研究については「わが国最大の巨大噴火の全体像が明らかに—阿蘇4火砕流の詳細な分布図と地質情報を公開—」が受賞しました(写真2)。受賞研究の展示パネルには受賞マークが取り付けられるとともに、上述のWEB会場ではトップに掲載されています。

尚、当特別展の制作にあたり、各研究者の皆様には大変快くご協力いただきました。また、各プレスリリース以降の図の準備等でGSJ研究企画室にお世話になりました。ここで謹んで御礼を申し上げます。



第1図 特別展ポスター。



第2図 特別展の二次元バーコード。 https://www.gsj.jp/Muse/exhibition/archives/2024/2024_pika1.html (閲覧日: 2024年7月1日)

¹ 産総研 地質調査総合センター地質情報基盤センター

キーワード: GSJ, 地質標本館, 特別展, プレスリリース, ピカイチ展

第1表 掲示パネルの一覧(発表順)。一部のタイトルについて、プレスリリース時のタイトルから変更されている。

発表日	タイトル	ユニット	GSJ発表者	カテゴリー
1月11日	1662年日向灘地震の新たな断層モデルを構築 — 地球物理学と地質学の検証に基づく初の成果 —	活断層・火山研究部門	伊尾木圭衣	新技術
1月30日	オミクロン株流行下における抗原定性検査の感度と特異度が判明 — Jリーグの選手とスタッフを対象にした検査から —	地圏資源環境研究部門	保高徹生	新技術
2月28日	海底地形にゴジラの名前！？ — フィリピン海プレート上の巨大メガムリオン、掘削の実現に向けて前進 —	地質情報研究部門	針金由美子	地質情報
3月1日	自然由来重金属類の濃度分布とそれに関わる環境因子の情報を公開 — 九州地方における表層土壌の環境が人に及ぼすリスクを見る化 —	地圏資源環境研究部門	原 淳子, 川辺能成	地質情報
4月12日	わが国最大の巨大噴火の全体像が明らかに — 阿蘇4火砕流の詳細な分布図と地質情報を公開 —	活断層・火山研究部門	下司信夫, 宝田晋治, 星住英夫	地質情報
4月18日	過去の地磁気の検出によりマンガンジョールの回転を実証 — 球状海底資源が深海底を転がり埋没せずに形成した過程を解明 —	地質情報研究部門	小田啓邦	新発見
4月19日	温暖化環境下で東南極氷床が融解し得る — 海面が将来大幅に上昇するリスクへの警鐘 —	地質情報研究部門	板木拓也	新発見
4月27日	日本周辺海域のアカサゴ 遺伝的な集団構造の一部が明らかに — アカサゴの保全に貢献 —	地質情報研究部門	喜瀬浩輝, 井口 亮, 齋藤直輝, 鈴木 淳	新発見
6月8日	リモートセンシングを使った地質解析で月のマントル組成の不均質の発見	地質情報研究部門	山本 聡	新発見
6月26日	日本海拡大時、大地の急速沈降と回転が同時発生 — 地質調査が明かす棚倉断層帯沿いの堆積盆の詳細な発達史 —	地質情報研究部門	細井 淳, 羽田裕貴	新発見
6月28日	日本周辺海域の寶石サンゴの成長速度が明らかに — 宝石サンゴの保全に貢献 —	地質情報研究部門	鈴木 淳	新発見
7月11日	AI技術を用いた深海における環境影響評価手法 — 物体検出モデルにより画像から懸濁粒子数を自動計測 —	地質情報研究部門	齋藤直輝, Travis Washburn, 鈴木 淳	新技術
7月20日	宮古島の固有種の故郷は消えた島だった？ — 地質学と生物学の融合研究が描き出した新たな琉球列島の形成史と生物進化 —	地質情報研究部門 活断層・火山研究部門	荒井晃作 大坪 誠	新発見
8月22日	東南極最大級の氷河へ向かう暖かい海水のルートを解明 — トッテン氷河を底から融かす海からの熱供給 —	地質情報研究部門	板木拓也	新発見
8月31日	東伊豆地域の隆起痕跡から過去のマグマ活動履歴を解明 — 伊豆・首都圏西部の防災に向けた地震・火山現象の理解へ —	地質調査総合センター連 携推進室 活断層・火山研究部門	穴倉正展 行谷佑一	新発見
9月18日	小惑星リュウグウから始原的な「塩(Salt)」と有機硫黄分子群を発見	地圏資源環境研究部門	荒岡大輔	新発見
9月21日	南海トラフプレート境界断層の現場再現実験から断層のすべり特性を解明 — スロー地震と巨大地震の発生メカニズムの解明に貢献 —	地圏資源環境研究部門 活断層・火山研究部門	北村真奈美 高橋美紀	新発見
9月27日	小惑星リュウグウ 宇宙と実験室で違って見えるのはなぜ？ — 「宇宙風化」が水のしるしを隠す —	地質情報研究部門	松岡 萌	新発見
11月30日	西太平洋のサンゴの分析により過去237年間の海水温変動を復元！ — 20世紀の温暖化による夏の海水温上昇が明らかに —	地質情報研究部門	鈴木 淳	新発見
12月7日	小惑星リュウグウ 岩石試料が始原的な隕石より黒いわけ — 地球に飛来した隕石は大気と反応して明るく変化した —	地質情報研究部門	松岡 萌	新発見
12月18日	デジタルツインに係る共同研究を開始 三菱総合研究所と産総研グループ — 自治体業務の効率化・高度化を推進する「新たな社会インフラ」の構築へ —	地質情報研究部門	宮地良典ほか	新技術
12月21日	海洋保護区安永海山の岩場で新種のウミエラ類を発見 — 北西太平洋から初報告 —	地質情報研究部門	井口 亮	新発見



写真1 地質標本館1階ホールのパネル展示の様子。展示正面にタイトルおよび一覧のパネルを掲示(写真右側)。



第3図 特別展 WEB 会場。地質標本館のホームページ内に設置。カラーセル式で研究を選択して閲覧できる。特別展の終了後も掲載している。



第4図 特別展 WEB 会場の二次元バーコード。 <https://www.gsj.jp/Muse/exhibition/archives/2024/pika1/index.html> (閲覧日：2024年7月1日)

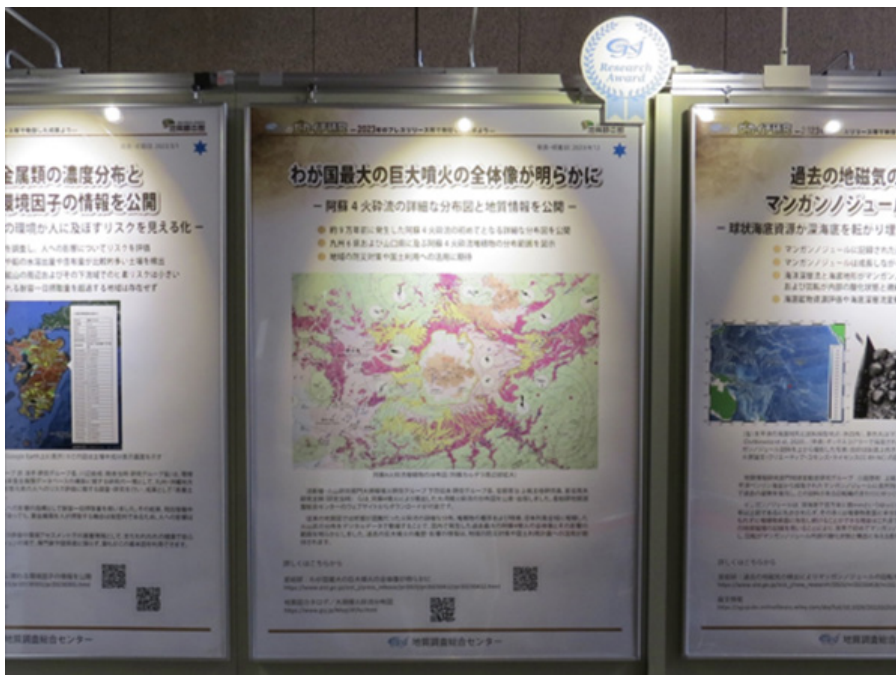


写真2 例年、プレスリリース研究の中から選ばれる地質調査総合センター研究奨励賞。2023年は「わが国最大の巨大噴火の全体像が明らかに —阿蘇4火砕流の詳細な分布図と地質情報を公開—」が受賞した。

MORITA Sumito, TOI Miho, SHIMIZU Megumi and Management Group, Geological Museum Office (2024) Geological Museum Special Exhibition, "GSJ's PIKA'ICHI Researches in 2023".

(受付：2024年7月1日)